

ゼロカーボンシティに向けて（鶴岡市）

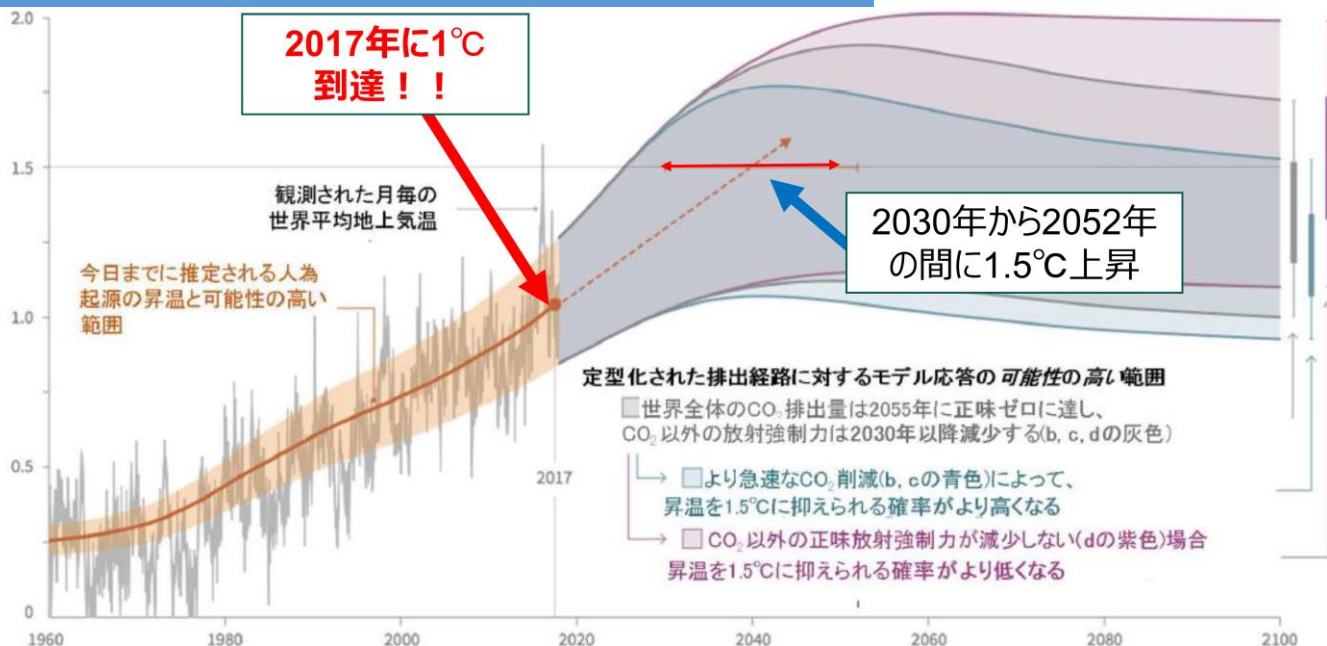
今までの経過

- 2015 パリ協定が採択
2℃目標、1.5℃努力目標（産業革命以前に比べ）
- 2018 IPCC1.5℃特別報告書の公表
1.5℃抑制は不可能ではない
⇒社会のあらゆる側面で前例のない移行が必要
- 2020 菅内閣総理大臣所信表明
2050カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す



2018
みどりちゃん
クールチョイス
推進大使に任命

IPCC1.5℃特別報告書によると…



SDGs 未来都市「いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡」
(イメージ図)

鶴岡市の目指す将来像

ほんとうの豊かさを追求する
みんなが暮らしやすい
創造と伝統のまち鶴岡

※現在の2050年までの目標
温室効果ガス排出量80%減
(2013年比)



ゼロカーボンシティに向けて（鶴岡市）

温室効果ガスの現状と新目標

現状（2018年）

新目標（2050年）

排出量

吸収量

鶴岡市域から
104万t-CO₂/年
※環境省推計より試算

ゼロカーボンシティに向けた取組み

森林等による
吸収

省エネ
創エネ等

排出量
↑
吸収量

森林整備等

取組みの一例



鶴岡市のごみ焼却発電による電力活用事業

- ・ 家庭等から出されるごみを焼却する時に出る熱を利用して発電
- ・ ごみ焼却発電の約6割が再生可能エネルギー（脱炭素社会に貢献）
- ・ 年間発電量は20,000メガワット（一般家庭約6,700世帯分相当）

【自家消費・環境価値活用】

ごみ焼却発電の1/3

自家消費

廃棄物処理では全国的に例の少ない新たな取組み

再生可能エネルギーとしての環境価値

環境価値を
証書化

提供



環境対策に取組む企業等



クリーンセンター
ごみ焼却施設
し尿処理施設

【売電・電力の地産地消】

ごみ焼却発電の2/3

売電



供給



市立小中学校等 30校
その他市有施設 6施設



鶴岡市のごみ焼却発電による自家消費電力の環境価値利用

鶴岡市ごみ焼却施設で発電する電力は、その約60%がバイオマス由来の再生可能エネルギーとして認定(FIT電力)を受けており、発電される電力のうち、1/3はごみ焼却施設やし尿処理施設で自家消費し、残りの2/3は余剰電力として売電しておりますが、売電の約60%はFIT電力として買取られます。一方、施設内で自家消費される1/3の電力については、FIT電力に相当する環境価値がありながら、これまでその価値が活用されていませんでした。本市では、この自家消費される電力に含まれる再生可能エネルギーの価値を、「電力そのものの価値」と、「環境価値」に切り分け、「環境価値」を「グリーン電力証書」として譲渡する事業に取り組みます。「環境価値」は6月以降需要家へ販売予定で、年間350万円程度の収入が見込まれます。なお、この取り組みは、廃棄物処理施設としては、豊田市に次いで全国2例目の取り組みとなります。

